

## 華鐘グループのお知らせ

### 「AERA」12月28日号の「現代の肖像」に古林総経理を掲載

朝日新聞の週刊誌「AERA(アエラ)2009年12月28日号」の「現代の肖像」に、華鐘コンサルタントグループの古林恒雄総経理を取材した記事が掲載されました。同号は12月19日(土)に発売されて現在店頭にありますので、興味のある会員企業様は、店頭もしくは「AERA」のホームページより電子版をお求め頂いて(いずれも380円)、是非お読みいただきたいと思います。

AERA(アエラ)の「現代の肖像」は、1988年の創刊号より続いている(と聞きました)、ある意味で同誌の看板記事で、かなり多くの独立ライターの方々が輪番で執筆されており、また写真もプロカメラマンが担当されています。今回のライターは企業関係を題材にして何冊も本を出版されている山田清機氏で、また、右の写真を撮られたのは、プロカメラマンの海原(うみはら)修平氏です。

内容は古林総経理の生い立ちから、中国の仕事に入るきっかけと仕事に入って以降の30数年の軌跡が多くの人へのインタビューを交えて構成されており、「「日中間のビジネスをやっていて、この名前を知らなければモグリ」。そう言われる男がいる。」という書き出しで始まる本文は、歯切れの良い文章で、ダイナミックに構成されていて大変面白く読めると思います。



### 週刊誌「AERA(アエラ)」と「現代の肖像」

「AERA(アエラ)」は、朝日新聞が毎週発行する週刊誌で、1988年発行されてもう20年以上続いています。正式には、「朝日新聞ウイークリーAERA」と言い、AERAとはラテン語で「時代」という意味(ウィキペディアより)だそうです。右の写真は古林総経理の「現代の肖像」が掲載されている2009年12月28日号ですが、表紙写真は坂田栄一郎が創刊号より撮りつづけておられるそうです。

同誌の「現代の肖像」は、毎回フリーのライターが一人の人物に焦点を当てて徹底的に深くその人に切り込んでいくことで有名で、今回も編集部の方と一緒担当ライターの方の山田清機さんにお会いしたのが8月ごろで、最初に長瀬さんから言われたのが「3~4ヶ月かけて取材させていただきますが、出版原稿を事前にお見せすることが出来ませんのでよろしく」ということでした。

最初の取材は華鐘コンサルタント(株)代表取締役の近藤氏と顧問である頃安氏との雑談会に合流していただいたので8時間以上にも及びました。その後山田氏は日本と中国の華鐘関係の社員やお客様、周辺の人たち、友人関係などをインタビューして纏められましたが、大変な作業であったと思います。

カメラマンの海原(うみはら)修平氏は、すでに5年も上海の貸しスタジオに住み込んで、消え行く上海、古い上海をプロカメラマンの視点で撮り続けておられるユニークな写真家で、その作品は中国で写真集として発行されていると共に上海市の档案(たんあん)館などに寄贈されて保存されています。

